



横浜グリーンモビリティカフェ

# 移動サービスとUDタクシー



認定NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク  
事務局長 石山典代

# かながわ福祉移動サービスネットワークの活動

高齢者・障がいを持っているために一人で外出が出来ない人の  
外出を支援する団体(福祉有償運送・移動サービス)  
の活動をサポートするネットワーク組織(会員105団体)

## 1. 2003年8月に設立

ガイドラインから2006年の道路運送法改正の動きの中で、県と共に、市民の移動サービスを衰退させないように支援体制を作った。

- 1) 福祉有償運送に関する相談窓口の設置
- 2) 運転者講習会の開催
- 3) 福祉有償運送実施団体等のリーダー学習会の開催
- 4) 代替講習の開催(16回、1023人受講)
- 5) 運営協議会委員の推薦・傍聴
- 6) 運営協議会運営に関する要望書の提出

## 2. 移動サービスの推進

・県内8か所で意見交換会の開催(今年で4年目)

関係者が集い、くらしの足を支えるサービスの充実に向け議論

参加者: 市町村職員(福祉局・交通局)、運営協議委員、民生委員、介護支援専門員、神奈川運輸支局職員

移動サービス団体、介護タクシー、法人タクシー

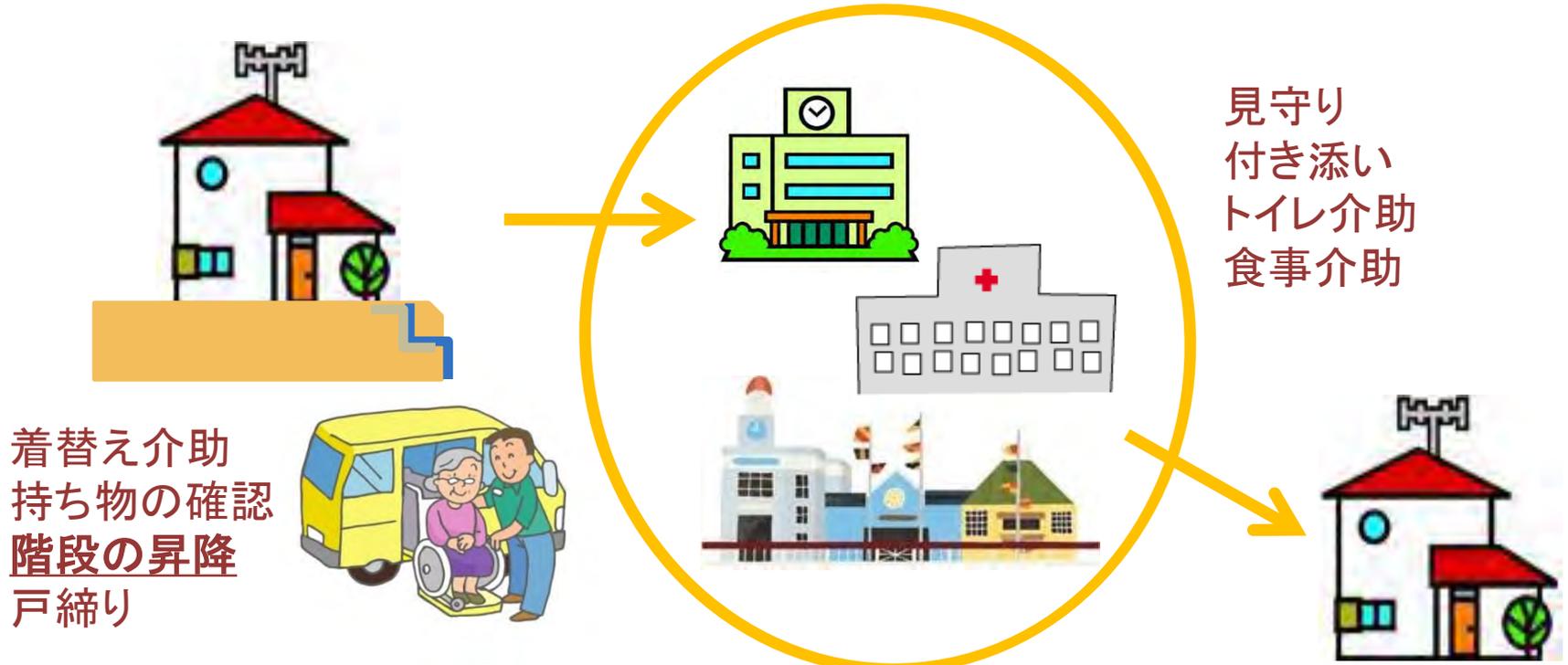
2012年度から神奈川県との共催で開催。約300人の参加。

・バリアフリー会議、横浜市交通政策推進協議会、県交通研究会、地域公共交通会議(市町村)への参画

・神奈川県タクシー協会との協業

EV、UDタクシー乗務員研修への講師派遣、UDタクシー普及に向けた移動推進事業

# 移動サービスとは



着替え介助  
持ち物の確認  
階段の昇降  
戸締り

見守り  
付き添い  
トイレ介助  
食事介助

何らかの理由で1人で移動することが困難な人  
公共交通機関(電車やバス、タクシー等)を利用するのが困難な人

## 介助と運転が一体となったサービス

〈生活を支える外出〉 通院、通学・通所、役所、日常の買い物(利用の70~80%)

〈生活を豊かにする外出〉 デパートなどのショッピング、趣味の外出(コンサート、美術館…)、友人との食事会、お墓参り…行きたい所へ!

# 地域のたすけあいから制度へ

地域のニーズから自然発生的に、あるいは運動的に活動が始まってきた。

2003年

- 構造改革特区の中で ガイドラインの検討が始まった。

今まで地域のボランティア  
送迎をしていた団体も

地域のボランティア送迎

制度対応が必要になった。

当事者支援のグループ

地域の福祉活動から

2006年

- 福祉有償運送として道路運送法79条に位置づけられる。

団体の成り立ちや考え方により、それぞれのサービス内容も異なる。

**地域発・市民発の活動**

# どんな外出支援が望まれているか

## はじめのお問い合わせは・・・

- 一人で通院できなくなったので付き添ってほしい
- 車いすを使うようになったのでタクシーに乗れない

## でも、目的地まで乗せて・降ろすだけではなく・・・

- 必要な時は部屋まで迎えに(介助)来てくれる(約35%)
- 外出の間ずっと付き添ってくれる(約60%)

2009年県協働事業アンケートより

## さらに・・・

- 買い物や趣味のお出掛けをしたい

# アンケート調査結果からわかったこと

2009年県協働事業アンケートより

## 外出先とその頻度

- 通院(94%)、日常の買い物(64%)には多くの人が行くが...
- 友人と会う、デパートなどへの買い物、食事、おでかけ...には
- 多くの人がほとんど行かないと答えている

## 1ヶ月の外出日数は

- 5日以内 31.8%、5日以上10日以内 19.7% ⇒ 51.5%
- 3分の1は、週1回以下の外出していない。
- 半数の人は、週の大半を外出しないで過ごしている

## 研究結果では

外出は、生活にとって不可欠なもの。通院にかぎらず買物や所用、友人との語り・食事など、だれでも最低限 月7回くらいの外出は、**心の健康**を保つために必要

藤井直人氏(元 神奈川県総合リハビリテーションセンター リハ工学室長)の調査から

# 相談・活動事例から～通院～

- 夫の病状が悪化。歩けなくなって、通院すらどうしたらいいか分からない。いろんな福祉情報の本を調べてやっとこの電話番号を見つけた。車いすでも乗れる車はあるか(家族)

- 認知症がある高齢者  
通院の際、家族が同行できない時に身の回りの世話や付き添いをしてくれるところはあるか



## <Mustの需要>

= 出かける前の身支度、  
病院での付き添い、  
受付や会計の手続き、  
診察の聞き取りと家族への  
報告、  
薬の受け取り、  
次回予約

⇒必要な介助を行う

## 相談・活動事例から～通学通所～

- 知的障がいのある息子40歳。送迎していた高齢の父が入院してしまった。通所先と自宅との往復を頼めるか。(家族)

- 知的障がいのある子どもの状態が悪く(外で騒いだりする)バスポイントまで行けなくなった。クシーもうまくいかず、困っている。(家族)



### <Mustの需要>

＝障がいの様子やその対応を確認し、学校や作業所への送迎開始。場合によっては学校・保護者・団体の検討会議を行うことも。

＝感情の起伏が激しいときは慎重に対応。場合によっては、二人の対応で送迎を行う。

# 相談・活動の事例から～生活を楽しむ

- ・元気なころはスケッチが趣味の父。病気で半身マヒになり、引きこもりがちになってしまったが、趣味の外出に付き添ってくれるサービスはあるか？
- ・車いすだが、お墓参りに行きたい！
- ・友人と一緒に新しくなった東京駅を見に行きたい。連れて行ってもらえるか（78歳女性）



## <Wantの需要>

- =長時間の外出の場合は、食事やトイレの介助も行う。
- =何より一緒に楽しむ。

介護保険対応  
でなければ、通  
院以外にも使え  
るんですね。(ケ  
アマネジャー)



# ユニバーサルデザインタクシー



# UDタクシー導入とバリアフリー化の推進

神奈川県タクシー協会

- 国の補助制度(地域公共交通バリア解消促進事業)を活用し、横浜市からのサポート(市独自補助・生活交通改善事業計画への盛り込み・研修への協力等)を得て事業推進中

(ハード面) H25/6末時点

- 平成24年度より3ヶ年計画でタクシー車両の5%をUD化  
⇒78社4,800両の内、目標台数240両(現在36社・61両)

(ソフト面)

- ユニバーサルドライバーの育成促進  
⇒現在249名のユニバーサルドライバーが誕生  
H25年度も養成研修6回実施予定

(研修内容) 9:00~17:00

- タクシーが支えるこれからのバリアフリー
- お客様とのコミュニケーション
- お客様の理解と接遇・介助の留意点
- 車いすの取扱い方と移動、移乗、座位、姿勢について

(担当講師) ※かながわ福祉移動サービスネットワーク

- 介護タクシー先行事業者
- 介護福祉士、理学療法士



# 横浜駅東口UDタクシー専用レーン(乗り場)

6/28全国初のUDタクシー専用乗場が横浜市の協力の下、オープン



	7/12(金)			7/13(土)			7/14(日)		
	稼働総数	内UD	車いす	稼働総数	内UD	車いす	稼働総数	内UD	車いす
8:00~	28	0	1	20	0	0	21	0	2
9:00~	36	5	1	30	4	1	48	6	1
10:00~	44	6	3	36	4	0	46	6	0
11:00~	43	9	4	53	16	4	31	5	2
12:00~	62	12	2	67	21	3	60	10	4
13:00~	74	21	1	72	18	3	70	12	2
14:00~	80	18	3	68	16	2	68	14	2
15:00~	91	16	3	44	9	3	52	11	3
16:00~	36	17	0	81	28	1	40	8	2
17:00~	65	22	4	93	22	4	58	18	2
18:00~	68	13	2	77	16	2	69	16	3
19:00~	92	18	3	85	10	1	75	12	2
20:00~	90	14	0	63	8	0	54	8	1
21:00~	76	0	0	52	0	0	36	0	0
合計	885	171	27	841	172	24	728	126	26

認知、PRが不十分は現状においても、一日約30組の車椅子ご利用者が東口より乗車

⇒PRによりより多くの方の乗車が期待出来る

# もう一つの移動困難者

- 高齢・障がいがあることでの移動制約に加え、

## ■ 環境的要因による制約

山・坂などの地形、住宅の郊外化、バス路線撤退による交通不便などにより、外出が困難な状態となり、移動弱者及び買い物弱者に陥る



- 地域交通の重要性

多くの自治体で交通不便地域の課題を抱えるが、赤字のバス路線をつくることはできない（行政：財源不足、交通事業者：採算が合わない）

- 地域の課題を地域で解決

地域住民が「市民参加型で交通をつくる」ことが出来ないか。移動サービスに続き、共助による交通づくりがはじまっている